

流山 九条ニュース

「九条の会・流山」HP：<http://www.nagareyama9.org/>

メール：info@nagareyama9.org

‘09 流山憲法集会 準備始まる

5月に憲法記念日に因んで憲法集会を開きます

講師：渡辺 治さん

(一橋大学教授 政治学者 九条の会事務局)



アメリカ主導のグローバル化や新自由主義が世界をどのように変えつつあるのかを鋭い視点で明確に解明する分かりやすいお話で定評があり、必ず参加者が多くを学ぶことのできる方です。

日時：5月16日 13:30 開場 14:00 開会

資料費：500円(中学生以下無料)

会場：流山生涯学習センター多目的ホール

◆現在ポスターやチラシ、チケットを準備中です。ポスター掲示をできる方は事務局までお知らせ下さい。

ミサイル防衛のテスト？ PAC3 発射準備

北朝鮮が人工衛星打ち上げだとするロケット発射に対し、故障などで日本に落下する事態に備え、政府は、海上配備型迎撃ミサイル(SM3)を搭載した海上自衛隊のイージス艦2隻を日本海に展開。さらに、秋田、岩手両県に航空自衛隊の地対空誘導弾パトリオットミサイル(PAC3)を浜松基地(静岡県)から移動させて配備するという。



PAC3は、日本国内に向けて発射された弾道ミサイルを、イージス艦に搭載された迎撃ミサイル(SM3)と連動して、地上からのミサイルによって撃墜するシステム。日本は2011年3月までに、全国11か所の自衛隊基地にPAC3を配備する計画。2008年3月29日、首都圏では入間基地(狭山市)、習志野分屯基地(船橋市)、武山分屯基地(横須賀市)。霞ヶ浦分屯基地(土浦市)に配備が完了した。

PAC3は、米軍が地球規模で構築している弾道ミサイル防衛システムのなかで使われ、米軍の指揮・統制・通信網の下に組み込まれる。アメリカが先制攻撃の戦争をおこなえるように、相手の報復攻撃を無力化することが目的とされており、日本やハワイ、グアムの米軍基地を守るためという指摘もある。

集団的自衛権の行使を禁じた憲法に照らしても、重大な問題

「九条の会・流山」事務局

阿部 7140-7605 石林 7154-7511

齋藤 7143-0374 三原 7152-6559

2009.3.25 NO.37



があります。射程距離が20キロ程度のため、防衛省は首都圏の基地からPAC3を都心に移動展開させる計画で、その候補地として新宿御苑にも持ち込んでテストが行われている。

《改憲動向情報》 ……九条の会ニュースよ

り

国民投票に向けた準備

いま開かれている地方自治体の3月議会では、新年度予算案が審議されています。ところが、その中には、「国民投票にかかる投票人名簿システムの整備委託」(東京中野区・約1100万円)、「国民投票に係る投票人名簿調整システムの構築」(京都市2600万円)といった項目が。国民投票の投票人名簿作成のための経費です。財源は全額国庫委託金。

総理府はこのため総額46億2千万の予算を組んでいます。そのほかにも国民向け宣伝のためのリーフ2千万枚、ポスター5万枚も作製の予定。

国民投票法案には18項目の付帯決議がつき、憲法

<お知らせ>

5・2憲法九条の集い in 千葉

講師

「命に国境はない～イラクで非暴力は実現するか」

高遠菜穂子さん(イラク支援ボランティア)

「九条の会とぼく」

奥平康弘さん(九条の会呼びかけ人)

とき:5月2日(土)13:00《正午開場》

ところ:習志野文化ホール(JR津田沼駅南口前)

参加費:500円

審査会がいまだに始動できていないことなど全く無視した動きです。

定例駅頭宣伝

3月9日、おおたかの森駅での定例の宣伝は参加者10名。最近おおたかの森駅は少し人通りが減ったように思うが気のせいかな。ものめずらしさも終わり?それとも不況で買い物客が減ったのか。

4月は 9日 (月) 15:30~16:30

駅頭宣伝 流山おおたかの森駅

少しの時間でも結構です。ご都合がございましたらご参加下さい

パレスチナとイスラエル

その対立の背景、解決の鍵は (その3)

阿部治正



イスラエルと米国の譲歩、国際世論の包囲こそ

この十数年間、パレスチナでの「和平」が追求されてきた。しかしその内容は、オスロ合意に示されるように、パレスチナ人の側が一方的に、法外な譲歩を、圧倒的な軍事力を背景に押しつけられるというものだった。イスラエルや米国などが言う「和平」は、パレスチナ人に対して「無力な者は犠牲に甘んじよ」「ユダヤ人や欧米人と同じ権利を主張できると思うな」という宣告以外ではなかったのだ。

こうしたやり方が和平などもたらすはずもなかった。もたらされたのは、パレスチナ人の中からの再度の急進主義勢力の登場であり、そして80年代に台頭したそれは世俗主義を否定し、宗教的な原理主義を掲げるハマスのような勢力であった。

パレスチナにもし和平の端緒が生じる可能性があるとするれば、それはイスラエルと米国の側の譲歩によるしかない。占領者とそれを支援する者たち、これまで甘い汁を吸ってきた者たちの側こそが、譲歩をする以外に、和平はまじめな議論の対象にさえならない。

問題は、イスラエルや米国に譲歩を強いる力が、どこに存在するかだ。強大な軍事力を背景にした「力の政策」を信奉し、その成功体験にしがみついているイスラエルや米国の支配層に、善意や良心や正義の観念を期待することは困難だ。彼らに譲歩を強制することが出来るのは、「占領は結局は高くつく」ことの学習の強制以外にはないだろう。

彼らに占領の「高価な代償」を自覚させることが可能なのは、やはり国際的な世論の圧力だ。何よりも、その質と内容には様々な問題がはらまれているとはいえ、パレスチナ人自身によるねばり

強い運動が前提だ。そして何よりも、戦争や抑圧を世界から無くそうとする国際的な民衆の行動のつながり。さらには、ユダヤ人自身の側における反占領・パレスチナ連帯の運動や、諸大国の政府の動向を和平に向けて活用していくことも必要だ。

「占領は高くつく」ことへの気づきは、イスラエルの国内にさえないわけではない。イスラエル国内では、高校生が反占領のストライキやデモを行い、兵士の一部は従軍を拒否している。この動きをさらに拡大していくことと同時に、パレスチナ人の解放運動がその宗教的狭量さや急進主義を、国際的な反占領・反戦・平和の民衆運動との関わりを通して克服していくこと、それらのことが前進するか否かに、中東・パレスチナの将来はかかっている。

パレスチナ情勢への注目を！ 日本政府に平和憲法にふさわしい行動を取らせるための圧力を！

劇映画

「いのちの山河」



岩手県の山間の小さな村。沢内村。

無医村。11月から4月まで5か月

間も雪に埋まり、外部と交通が隔絶され、郵便の配達も止ってしまう猛吹雪を恨みながら、石コロのように死んでいった病人。“豪雪・多病・貧困”の中で乳児1,000人中69人が死亡という乳児死亡率が日本一の、また老人の自殺の多い村。

悲惨な村の生活を何とか良くしたいと願った深沢晨雄は村長になり、全国に先駆けて1961年に60歳以上の老人医療費と乳児の医療費無料化を実現。訪問医療や予防検診、栄養指導など徹底した予防医療体制を実施して全国初の「乳児死亡率ゼロ」を達成した。その衝撃は全国に伝わり、各地で老人医療費無料の自治体が生まれていった。1968年に刊行された菊池武雄の岩波新書『自分たちで生命を守った村』は感動の一冊だった。

その貧しい村の村長と村人たちの命を守るたたかいが映画化される。

製作協力券(1000 円)の取り扱いを始めています

券の普及と上映運動にご協力いただける方、ご連絡下さい。

カンパはこちらの郵便振替口座へ

00130 - 5 - 464735 口座名 九条の会流山